

備前市事務事業評価表

事務事業名	飲料水供給施設管理運営事業		コード	01-01-09-04
			担当課・係	水道工務課給水係
			担当者	山野井梅香
			電話	0869-66-9793
事業実施期間				
総合計画 事業（政策）体系	大項目（基本目標）	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目（基本施策）	生活しやすいまちづくり		
	小項目（施策）	上水道及び簡易水道		

事業について		
目的 (何のために)	鴻鳥地区の飲料水供給施設の維持管理により、常に安全で安定した水道水を供給する。	
対象 (誰・何を対象に)	鴻鳥地区飲料水供給施設の水道使用者（住民 51名、別荘利用者 約100名）	
内容	漏水調査・修繕・点検など施設の維持管理	

事業の結果			
実施項目	17年度	18年度	
	回数など	回数など	回数など
漏水調査件数	1 件	2 件	
漏水調査費	157,500 円	89,775 円	
漏水修繕件数	11 件	10 件	
修繕費	393,317 円	741,195 円	
水道使用者	149 人	146 人	
事業費 (単位：千円)	事業費	財源	事業費
	8,064	9,600	8,145
	人件費 8,749	人件費 6,010	人件費
	9,123	8,145	
合計	16,813	7,690	0

必要人員	1.00 人	0.78 人	
結果指標①	結果指標名	結果指標量	
	漏水調査件数	2	
	単位	件	
	対前年比	200.00%	0.00%
	活動にかかるコスト	157,500 円	89,775 円
	単位当たりコスト①	157,500 円	44,887 円
結果指標②	結果指標名	結果指標量	
	修繕件数	10	
	単位	件	
	対前年比	90.91%	0.00%
	活動にかかるコスト	393,317 円	741,195 円
	単位当たりコスト②	35,756 円	74,120 円

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	漏水の調査・修繕を実施し、有収率を向上させる。		
成果指標名	有収率	式又は説明	有収水量/配水量
	17年度	18年度	
成果指標量	37	31	
対前年比	-	83.78%	0.00%
到達目標値	75	到達目標年度	平成27年度

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等：	妥当性評価<A~E> A 課題認識
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	安全で安定した水道水の供給は、市民の日常生活に欠くことのできないもので、施設の維持管理は必要である。
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> B 課題認識
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	漏水修繕の単位当たりコストが増加しているのは、大口径管の破綻が多かったのが原因と考えられる。現状の漏水調査、修繕だけでは漏水量の増加を抑制できなくなっており、配水管の更新改良が必要となるが多大な費用を要するため、減圧弁取替で水圧を調整するなど別の方法で漏水量を減少させることが必要である。
	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> C 課題認識	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	成果指標の有収率が前年より悪くなっているのは、漏水量の増加が原因で、施設の老朽化もあり、安定した水道水供給のためには、今後、他事業との統合もふまえ、施設の計画的な更新改良整備が必要である。
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

平成19年度状況		説明
<input type="checkbox"/> 重点化している <input type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input checked="" type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	
目標値	結果指標量① 3	結果指標量② 13
	成果指標量 45	

総合評価	安全で安定した水道水の供給は市民の日常生活に不可欠であり、有収率を向上させ、効率的な水の供給を行なうためには、他の事業との統合を行い、施設の更新改良整備を行っていく必要がある。	評価区分<A~E> B
------	--	-------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 他事業と統合を検討する
--------------	---	---

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
有効性	他事業との統合により、施設の更新改良整備の実施	平成27年度	有収率の向上